

実証の目的と実施内容

【目的】

- ✓ 感染拡大防止の観点で混雑を避け安心して移動できる情報提供サービスと、混雑平準化という公共交通機関の適切な利用を促すような都民にも交通事業者にも双方にメリットのある施策を検討する

テーマ 交通混雑	実施エリア -	プロジェクト実施者 (株)MaaS Tech Japan (プロジェクト代表者)、小田急電鉄(株)、西武鉄道(株)、他鉄道会社
-------------	------------	--

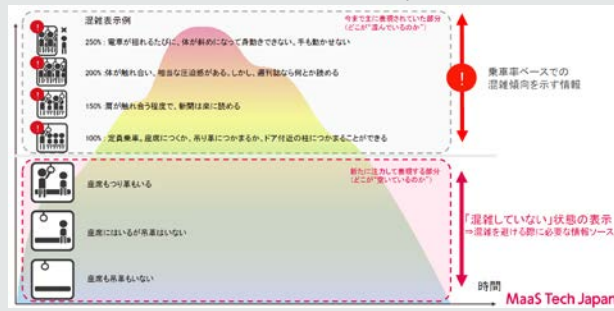
鉄道会社ヒアリング

- 協力鉄道会社へ、下記3点をヒアリング
- 混雑情報のデータ取得・整備状況
 - 安全な移動を促すため、「空いている」情報を配信することへの評価
 - 情報提供に向けたシステム構成・アプリ画面案等への評価

混雑情報配信方法の検討

- 今まで情報提供がなされていなかった「空いている」情報を鉄道利用者に提供し、安全な移動を促す情報配信を検討
- 鉄道会社等の意見を踏まえた、システム構成案やアプリ画面案等も作成し配信方法の具体案を作成

安全な移動を促す情報配信のあり方を検討



アプリ画面案



※イメージ

ユーザーヒアリング

- 1,030名の鉄道利用者へアンケートを実施し下記事項を確認
- 現在の通勤状況・鉄道利用状況
 - 混雑情報配信の活用意向有無
 - 混雑回避のための情報提供サービスに対する利用意向

事業の成果と今後への期待

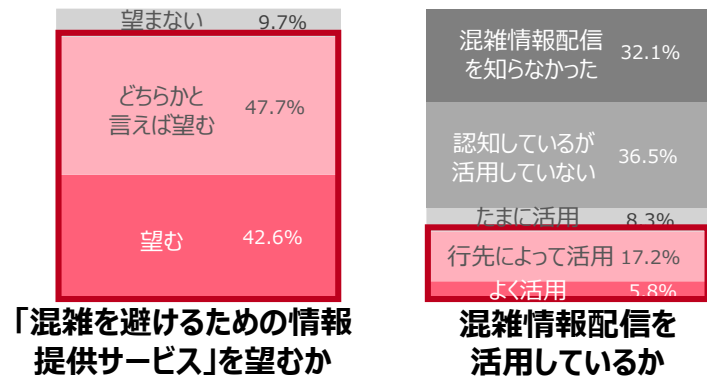
主要な 成果

鉄道会社保有の交通混雑データを踏まえ 情報提供方法を整理

- 鉄道会社3社へ混雑把握に役立つデータの整備状況を確認し、①**応荷重データ**¹ ②**入改札データ**²が、**混雑の平準化を目的とした情報発信に活用しうる**ことを確認
- 鉄道会社によって応荷重・入改札データの形式や運行形態等が異なるため、統一的表示のためにはデータの変換機能が必要。**データ変換機能を担う主体を行政、民間の場合に分け、システム構成案とそれぞれの評価（メリット・デメリット）を整理**

混雑回避の情報提供へのニーズを確認

- 「**混雑を避けるための情報提供サービス**」を約9割の鉄道利用者が望み、ニーズが高い。一方、混雑情報配信はまだ普及途上にある状況³



実証を 踏まえて

- ✓ 【発展性】混雑平準化を企図した「空いている」情報の提供について、鉄道会社及びユーザー双方の賛同する意見が多いことが確認できた。混雑を避けた安全な移動の実現に資するシステム案やアプリ画面案の方向性も提案

➤ 今後サービスの実現に向け、**統一的な混雑基準の検討や統一的な混雑状況の表示のためのデータ変換機能について、官民双方の担うべき役割や機能の詳細整理が必要**

1 応荷重データ：車両に設置された応荷重装置により測定される重量データを利用して、車両の乗車率（混雑率）を求めるもの

2 入改札データ：自動改札機の出入数データを集計し、列車の輸送力との比較等で乗車率（混雑率）を求めるもの

3 本プロジェクトで実施した1,030名の鉄道利用者へのユーザヒアリング調査結果